

イセエビ放流技術開発試験 (要約)

増養殖対策科 石 井 功

当事業報告書は別途「平成9年度イセエビ放流技術開発試験報告書 H10年3月 高知県他」として印刷されているので要約とする。

1. プエルルス、稚エビ、幼エビの中間育成

簡易籠方式による開発試験を実施した。飼育籠は籠の目合いとシェルター、蓋の取り付け方や構造がポイントに成る事がわかった。

(プエルルス、稚エビ使用籠3種類207尾供試 幼エビ使用籠10種類 H7,8 稚エビ160尾供試)

2. 天然稚仔の採捕

共通コレクターを使用して県下3ヶ所で5～10月まで採捕試験を行い両者合わせて207尾採捕した。池の浦地区で今年の1割以下と悪い。

3. プエルルス、稚エビの生態調査

池の浦、志和地区で8、12月に3回実施した。場所は8カ所で水深17m以浅で体長4～8cmの稚エビ26尾確認した。

4. 標識放流試験

池の浦地区で10月幼エビ200尾(平均体重121gと125g)をアンカータグ、同チューブをして地先に放流した。又再採捕エビの標識は経日変化につれ認識番号が読めなくなる。水槽試験も同じ傾向にある。(25mmタグ試験経過 10g、20gエビへの脱落率等、標識後1年位した30～100gに噛み合い等により極端に悪くなる。)

5. 環境調査

池の浦地区で8月と3月に3カ所7stの餌料環境と藻場を坪刈りした。昨年と似た状態で推移している。

6. 漁業実態

池の浦、志和地区のイセエビ漁業者2名に依頼して記入調査した。両地区とも300g/尾以下が漁獲の主流をしめる。データベース化し経年解析検討中。